

スコタイ・タマティラート大学

## タイのオープン・ユニバーシティ

イアム・チャヤナン\*  
小玉美意子訳

### はじめに

タイは独立と統治の一貫した長い歴史を持っている。それ故に自由の国という名前がつけられている。1979年現在で4550万の人口を持ち、その内、80パーセントが田舎に住み、47パーセントが20才以上の成人人口である。政府の人口抑制政策にもかかわらず、人口は毎年2.2パーセントずつ増加している。人里離れた山間の集落をのぞけば、タイ人は基本的に同じ社会的および文化的価値観を持っている。一人当たりの平均収入は、年間およそ300米ドルである。

### オープニング・ユニバーシティの 心要性

この事業はすべて、かの高名な教育者であり、大学庁・国務大臣次官であるウィッ

ット・スリサーン教授の側の発案によりスタートしたもので、なんらかの理由で大学へ行けなかった人々に高等教育を拡張しようというものである。

タイ国における大衆教育は、初等・中等レベルではすでにめざましいものがあるが、中等以上の教育を続けようとする、大学教育の恩恵をこうむる人の比率は、設備などの点で比較的限られてくる。一般的にいうと、高等教育に近づく機会を多くの人が持てない理由は、主として地理的立地条件よりも、大学そのものの不足である。

生涯教育についての関心が高まってきたことも、タイのオープン・ユニバーシティ設立をうながしたもう一つの大切な要因である。伝統的な大学と私立のカレッジが供給する知識の伝達方法や編成は、高等教育を求める勤労者には相応しくなかったと思われる。大学で勉強している間は普段の仕事をつづけ、教室に行かなくともすむような代りの学習機会、あるいは新しい教育システムが、彼等には心要なのだ。そういった可能性の一つがオープン・ユニバーシテ

---

\* Iam Chaya-ngam, Vice-Recfor for Academic Affairs and Dean of the School of Liberal Arts, Sukhothai Thammathirat Open University

イによる遠隔教育の実施である。タイでは、ほかのどこの国でもそうであるように、親達はつねに、高等教育は富を増すための道程だと考えてきたし、また、最後に得るものを考えれば、その努力はするに価するとの確信から、子供たちに教育を受けさせるために、最善の努力を惜しまなかった。

かつて、大志を抱いた学生たちは、いうところの「学問市場」(academic market)に集まることができたかもしれない。これは後にタマサット大学と名前を変えた、1933年設立の道德・政治学大学 (University of Moral and Political Science) が提供したものである。タマサット大学が他の現存する大学ときわだって遠った点は、入学試験がまったく無かったことと、教室に行くことが義務づけられていなかったことである。しかし残念ながら、20年間の無試験入学の後、タマサット大学は外の伝統的な大学のような入学試験制度と学習制度を取り入れなければならなくなった。

過去10年間の高校卒業者数の増加率は本当にめざましいものがあった。その結果、大学生の座への欲求がとても強かったので、ますます増加する学生を収容するためには、既存の大学がこれ以上拡張したのではもはや間に合わないことが分かった。あいにく、この10年間、経済的に不安定で、不景気とインフレが長引いていた。全般的には良好な傾向に見えた1981年でさえ、タイは依然として経済問題をたくさん抱え、その中で

も重大なのは16-18%に及ぶ生活費の急上昇と、600-700億バーツの赤字であった。

経済的逼迫の増加している間は、大改善や大規模の拡張は行われぬものだ。毎年、高等教育機関に学生の受入能力を増加させるように要望があるが、大学学生数問題はかつてないほど慢性化しゆゆしき状態のままであった。政府はしかし、すでに述べ、且つ実行しているように、この問題に取り組む固い決意をしている。1971年に、もうひとつの公開入学制の大学、ラムカムアエン (Ramkhamhaeng) が、高等教育需要に特に対処するために設立された。ラムカムアエン大学は、1979年度に117,532人の学生登録数を記録し、無制限に入学志願者を受け入れられることが証明できたものの、特に自然科学の設備に関して、教室での授業の信頼性が多くの問題を露呈した。ご承知のように、ラムカムアエン大学は、詰め込み教室の問題を緩和するために、バンコク近くにもう第二キャンパスを作っている。それはしかし、一時しのぎに過ぎない。

伝統的の大学と公開大学の両方を同時に、ラムカムアエン大学に運営させることは不適切であるとの考えから、大学は、ウィッチット・スリサーン博士の指導と惜しみない努力によって、公開 (open) のことばに本当に近づくような公開大学 (Open University) を設立することに決定した。ウィッチット・スリサーン博士の指導のもと3年間にわたって計画が練られ、オープン・

ユニバーシティはついに1978年9月、公開教育施設としてスコタイ・タマティラート大学の名前で、王室勅許状によって創立された。その目的は「教育の提供、ならびに学問的および専門知識の増進、社会への学問的貢献、そして、文化の保護」となっている。

ほかの伝統的な国立の大学と同様、スコタイ・タマティラート大学も大学庁の指導監督のもとにあるが、大きな自律性を保ち、学位を授与する権利をもっているが、それは、ほかのタイの大学と同様の権利であり認定である。

### スコタイ・タマティラートの 名前の起原

タイの大学の中で最も若く、東南アジアで最初のオープン・ユニバーシティであるこの大学の設立は、タイにおける教育の民主化の、新たに重要なもう一步とすることができよう。タイ人民に最初の憲法を与えたのがラマ7世である事実を考えると、ラマ7世の記憶をとどめるために、それにちなんだ名前をこの大学に下されるよう国王陛下にお願いした。

スコタイ・タマティラートという名前そのものは、国王陛下が偶然お選びになったものだが、ラマ7世とは結び付きが深く、王位を継承する前ラマ7世はクロマルアング・スコタイ・タマラージャ、あるいは短

くスコタイ王子と呼ばれていたのである。

スコタイという言葉そのものの意味あいはタイ人民から好まれてきている。タイ王国の始まりとしても、またタイ文化と学習が初めて根づいた場所としても、スコタイは真に、民主国家としての名声あふれる国土であった。「川には魚が泳ぎ、畑には米がなる」とスコタイ時代の古い碑銘にある。「商売したい者は商売ができ、勉強したい者は勉強できる・・・」。

また国王陛下はラマ7世の個人的な紋章を大学の紋章として使うことを許され、このようにしてスコタイ・タマティラートという名がラマ7世の栄誉の記念としての意味があることを、確認しておられる。

スコタイ・タマティラート・オープン・ユニバーシティ——略して“STOU”——の設立は、タイ国内で放送される番組で学習する、最初の成人むけ家庭基盤(home based)大学として位置づけられる。生涯学習の基本理念と、高等教育への要求がますます増大するのに対応一般大衆の生活の質を向上させることを狙いとして、STOUは、教育の民主化というタイ政府の政策の延長として、どんな生活をしている人にも大学教育の機会を平等に与えることを使命と考え、人的資源を開発するためにこの国の現存するすべての下部構造(infrastructure)を、可能なかぎり有効に使いたいと考えている。

遠隔教育技術とSTOUが採用する相応

した指導メディアを通して、国中のさまざまな専門職で働く人々、ことに遠い地域に住む人々は、学習期間中仕事を止めずに、わずかな費用で高等教育や専門職訓練を受ける機会を平等に与えられることになる。この方法によって STOU は、ほかの人々と比べ恵まれていなかった勤労者の教育水準と職業能力を、上げることができる。これがタイ国の生活の質を向上させ、国の生産力を増進し、そしてその故に社会的公正を促進する一助となることが期待されている。

## 教育構造

上記のような基本的概念と目的で、STOU はふたつのタイプの学習プログラムを提供している、つまり学位授与と学位なしのコースである。提供しているコースは、国の重要課題と大学遠隔教育システムが両立するところに関連している。学位なしのコースには、一般大衆の個人的能力開発と職業能力促進のために、特別に企画されたコースが用意されている。

## 学部

さまざまな重要な規律が持ち込まれ、お互いに対話することは最初から企図されていた。それゆえ、STOU は大学を教授会と学科に組織するという伝統的慣行に従っ

ていない。学生は一分野の学位取得の必須科目群はすべて“S”の評価を取らなければならない。二等級名誉学位を取得するには、少なくとも半分以上の“H”評価を一分野の必須科目群で取らなければならない。一等級名誉学位には“H”評価を同じく四分の三以上取らなければならない。

学位授与コースの学生は、およそ22-24群を完遂しなければならないが、修了証や免許状の学位継続のための学生は、12群のみ通ればよい。学位取得の資格を有する最長在学期間は各カリキュラムに定められた期間の3倍を越えない範囲となっている。このように、4年の学位継続コースなら2-6年で学位を取得することが許されている。

もし学生がある分野の学位取得に必要な十分な数の群を修了したら、彼は集中的能力向上プログラムを履修しなければならず、そこで、彼がこれまでに取得した知識と志望に対する可能性の評価を受ける。このようなプログラムを履修した場合のみ、学位に対するすべての要件を完了したとみなされる。

## 指導法

B. E. 2521年(1978年)制定のスコタイ・タマティラート大学法によれば、次のように述べられている。

「この大学が提供する教育は、学生が教

室に出席しなくても自分で学習することを可能にする、ラジオ・テレビ放送その他のメディアを通して行われるものとする。この大学への登録および入学許可は、大学理事会によって定められた規則に依るものとし、入学試験は行わない」

STOUは教育を分かちために遠隔教育制度を取り入れた。最小の助力で学生が自力で学習することを可能にするために、大学は各々の群を15単位に分割し、1単位が1週間の学習量にあたるようにすると共に、指導ができるだけ効果的になるよう、違ったメディアを使うことにした。

STOUが信頼している指導メディアは、印刷による自習コース素材、オーディオ・カセット・テープ、そして一定数のラジオとテレビ放送、さらに地方および地域学習センターでの種々の面接指導により、なりたっている。印刷教材が指導の基本的メディアとなっはいるものの、学生に刺激を与え、学習の孤独感を少なくするために、印刷物の内容をより強化するための支援メディアとしてオーディオ・カセット・テープやラジオ・テレビ放送を提供するのがよいとみなされている。

それと同様に重要なのは、国中のすべての町に設立された学習センターにおける、チューター方式による一定限度の個人的接触である。すべての学生は、彼らが住んでいる町の学習センターから指示を受ける。学習センターへの出席は全く個人の自由で

ある。強制でないというものの、チューターの授業は印刷教材の価値を高めるものと考えられている。そこでは、家庭で学ぶ学生の孤独感を取り除き、コース内容の色々な問題点や視点をチューターと議論できるし、また外の学生と会う機会にも恵まれる。

タイのような発展途上国では、マス・コミュニケーションが十分に発達していないばかりではなく、国のすべてにも行き届いていない、と言うことを指摘しておかなければならない。その結果として、また経済的な理由から、STOUは教育メディアとして大規模な放送を採用することはできないのである。

しかし面白いことに、STOUの印刷教材はひとりの学者ではなく、コース・チームによって作り出され、コース・チームはおのこの各科の一流の専門家7名と教育技術者1名、評価の専門家1名からなりたっている、ということを書いておこう。コース・ライターでもある各科の専門家を別にしても、ほかに何人ものコース・チーム員でないコース・ライターがいるのである。あるライターは相応の学校の常勤の教師であり、他の者はさまざまな大学や機関から引き抜かれてきており、その中には民間機関からの者も含まれている。印刷教材に関して言えば、学生が誰の助けも借りずに学習できるような構成になっていて口で説明やコメントを付け加えることはほとんど必要がないように作られている。

一切合切で、学生は1週間に15時間から18時間学習することが期待されている。およそ70%の時間が印刷教材を読むことにあてられ、その他の時間は、週毎のラジオ番組を聞いたり、1コースあたり3-5のテレビ番組を見たり、学習センターで月1回、週末の面接指導に参加することにあてられ、しめて1コースにつき約6-8時間になる。

### 常勤および非常勤の教職員

STOUが家庭での学習のみを供給し、教育を分かつのにさまざまな指導メディアを使っているため、必要な常勤職員の数は他大学より少ない。

大学は学問の提供とそれを支えるのに必要な人員だけを持つことにしている。通常、一人の教師は1群、6単位の責任を持っている。22-24の、6単位からなる群で構成される学位授与プログラムには、約20人の常勤職員が必要である。

本学以外の専門家やすばらしい学問的業績を挙げている他大学のスタッフにも、コース素材準備やその他の仕事の助力を求めている。助力は、借用・契約・常勤および非常勤雇傭の形を通して行われる。このような方法は人員利用をより柔軟性のある、そして経済的なものになっている。

現在、STOUは344人の教職員を包え、そのうち38人が学者である。大学が所期の大きさに達した時は、500-600人の常勤教

職員を持ち、その3分の1が教員であることが予想されている。非常勤教職員については、季節的または特殊な仕事をするため日ぎめ・月ぎめで雇われている大多数の人々を別として、中学・教員養成大学・地方大学に置かれている75の学習センターで、チューターとして地域で募集した7000人におよぶ教員をSTOUは擁している。

### 管理機構

STOUが公開(open)であることの証拠は、入学受付の公開政策と、従来の大学が面倒を見られない恵まれない人達の質的向上を行っていることだけではない。地域の学習センターで巡回講師として、またはチューターとしての仕事に携わるため、さまざまな外の教育機関から来ている多くの優秀な教員もまた、同様に公開政策に則っている。公開であるもう一つの例は、タイの大学の歴史の中でもまことに珍しいことだが、STOUの管理機構の中、特に大学理事会(University Council)の構成と教授会(Academic Senate)の存在の中に見い出される。学長を頭とする大学を治めるのはこの二つの機関であり、外のタイの大学に見られるような単に大学理事会だけが治めているのではないのである。1978年のスコタイ・タマティラート大学法によると、この二つの大学機関の権利と義務は次のようになっている。

## 大学理事会

(University Council)

最高統治機関として大学理事会は、大学のすべての事柄に対し、指揮・監督する権限と義務がある。殊に、次の権力と義務を持っている。

- (1) 大学と国家政策の目的を一致させるために、教育・研究・社会の教育活動に関して、大学の方針を策定すること；
- (2) 大学の規則と法規を作成すること；
- (3) 学位・卒業証書・成績証明書の表彰および授与の認可；
- (4) 学長室、研究所、学部、その他の考え得る事務局の設立・解散・合併の検討；
- (5) 高等教育に関して、外の機関との連携の認可；
- (6) 学長・教授の任命および解任の検討；
- (7) 副学長、研究所長・副所長、準教授・助教授の任命と解任の認可；
- (8) 大学の財政と財産に関する規則の作成；
- (9) 大学理事会によって委任された事柄を遂行するための、特別委員会の任命；
- (10) 特に誰にも特別委任されていない大学業務に関するその他の義務の遂行。

国王の任命による学長が座長を務める大学理事会は、大学庁次官かその代理、広報省長官かその代理、郵便電報省長官かその代理、タイ国マスコミ機構長官かその代理、

タイ国通信局総裁かその代理、学長、職務権限のある議員全員、教授会代表、諸々の他団体から引き抜かれた4-9人の国王から任命された有資格メンバーから成っている。

## 教授会 (Academic Senate)

大学の学問的事項に責任を持つものとして、教授会は次のような権限と義務を持つ。

- (1) 学問水準を設定し、教科課程、教育、評価に関連したすべての監督をすること；
- (2) 学位、卒業証書、成績証明書の表彰および授与の提案；
- (3) 研究所、事務局、学部の設立、解散、合併、および廃止の提案；
- (4) 教育の進んだ他の機関との連携の検討；
- (5) 大学理事会メンバーとしての資格ある人物の任命提案；
- (6) 教授・準教授・助教授の任命と解任の助言；
- (7) 教育、研究、その他、大学の教育活動を発展させるための方法と手段を見つけること；
- (8) 大学業務に関する大学理事会の助言；
- (9) 教授会によって委任された課題を遂行するための特別委員会の任命。

学長が座長を務める教授会は、学部長、研究所長、事務局長、教授、職権を有する

議員から構成される。また、各々の学部の常勤教職員の中から選出された大勢のメンバーもいる。

これら二つの政策決定機関の構成と任期は、タイの大学に新しい清新な考えを作り出した。STOUの大学理事会の独創的なところは、内部の人間で構成されている他のタイの大学と違って、大学内からのメンバーはほとんど除外するという構成にある。理事会では学長と教授会メンバーだけがSTOUの常勤職員を代表し、その他は部外者である。大学の長として、学長はまた、大学理事会に直接報告を行う。大多数のSTOU外の人とは別に、この理事会の会員たる資格は、もう一つ目立った特徴を持っている：それは、職権を持つ議員、政府関係の省、および大学が使うメディアや施設と関係のある機関の長を含んでいることである。このように確立されたマス・メディアとの連携はSTOUにとっても価値ある財産であることが、経験により立証されている。

大学のすべての学問的方針を明確に策定するただ一つの機関として、STOU教授会は大学が持つ権利のなかでも革新的と考えられる。タイの高等教育機関の歴史の中で、数ある大学業務の中でも、学問水準を独自に定め、且つそれを維持するための特別の機関は、STOUの設立以前には存在しなかった。このような機関の指導と監督のもと、STOUが、高い学問水準と職業

的能力を持つ卒業生を送り出す機関として認められることを期待している。

STOUを構成するほかの機関として、学長室、教育業務課、大学学務課、教育技術課、登録・記録・評価課がある。STOUの学長室は、タイの従来の大学とほとんど同じ機構と責任を持っている。中枢、財政、備品調達および財務管理、企画の四つの係から成っている。ほかの四つの課はSTOU独自のもので、次の分野の責任を負っている。

### 教育業務課

通信学習センターを通して、学生にコース資料の梱包と配送、ならびに地方・地域の学習センターの管理と協力；地方事務係を通しての学習相談の提供；カウンセリング係を通しての教育・職能指導・カウンセリングの提供に対し、責任を負っている。

### 教育技術課

視聴覚センターによる図形、写真、マイクロ・フィルム、教育フィルムの制作；教育ラジオ・テレビセンターによる教育ラジオ・テレビ制作、STOU番組の放送のためのラジオ・テレビ局との協力；大学印刷局による自習テキスト、本、ハンドブック、ワークブック、大学のあらゆる種類の書類の印刷；情報文書センターによるスタッフ



が利用する教科書、文書、視聴覚資料の獲得、学習センターでの図書分館の設立；運営システムと教育メディア研究係による教育メディア・システムの運営とコース資料の将来の向上のための教育メディア研究、指導方法、に責任を負っている。

## 大学学務課

各学部の教員、コースチーム、学務委員会、教授会に対する秘書的業務の提供に対して、責任を負う。ことに、教員開発係による、教員の訓練プログラムの協力；教科課程・教授法開発係による教科課程と教授法の開発；研究係による研究への支援業務の提供と研究協力；教科書係によるテキストの著作と翻訳の促進、の責任を負っている。

## 登録・記録・評価課

入学認可係による学生の願書受付；学生記録係による学生登録、学生の統計、成績；評価係による学生の成績評価と分析、試験時間表とセンターの用意、テスト業務の用意；テスト研究・開発センターによるテスト用紙の工夫・研究・開発；コンピュータ・センターを通じてのコンピュータ業務の提供に対し、責任を持つ。

## 1980—1981年度入学生の学歴背景

初めて学生を受け入れた1980年12月1日、STOUの、教育学部と経営学部の二つの学部に、68人の仏僧を含む合計81,969人の学生が登録された。教育学の中での研究の主な分野は、初等教育、中等教育、教育行政である。経営科学での主な分野は、建設経営である。学部を学科に分割すると編成は次のようになる。

教育学	教育免許	1,728
	初等教育	29,531
	中等教育	24,825
	教育行政	19,079
経営科学	建設経営	6,806

教育学部は現在のところ、所属学生は一人もいない。というよりも、他学部の枠の中で必要に応じてたくさんの基礎科目を提供している。

入学試験なしで登録の資格があるのは教育学部で、現役の教師、または教職に関連のある仕事をしている人達である。それに加え、彼等はまた、

- a) 教員免許、MS 5 免許か、それと同等の資格を持っているもの；
- B) 高等教員免許、高校卒業証書、またはそれと同等の資格を持っているもの；
- c) MS 3 免許状かそれと同等の資格を持ち、MS 3 免許状を得てから5年以上の教員経験があり、登録する年

の6月1日までに20才以上になっているもの。1980年の学年度で、上記の資格を有するものは、教育免許プログラムに限って、登録することが許される

経営科学部で建設経営を専攻している者は、高等職業免許状か、建設土木、建築工学、交通工学、工学調査、灌漑工学、建築、土木製図、建築製図、その他教授会で認められた建設関連分野か、それと同等の資格を持った者である。それに加え、少なくとも2年の職業経験を持っていないならない。

STOU学生はすでに勤労者であるから、彼等の雇傭見通しは卒業後に高められるということを、記しておくべきであろう。7月1日に始まる1982年の学年度で、大学の全学部に登録が予想される勤労者の数は15万人と推定され、現在履修中の約6万人の上に加わる。

## 継続教育

働く人々の能力を開発し、彼等の職業能力にとり基本的な知識を獲得させることが重要であり望ましいことを、STOUは認識している。彼等がすでに受けた教育を補いさらに力を与えるため、STOUは1981年6月に継続教育プログラムを発足させ、準学生としてこのプログラムに参加したい人なら、年令・資格・職業を問わずに、学

位プログラムの中から五つの6単位コース、または群を、提供することにした。これらは、基礎英語、タイ語、教育・生活・地域、教育の基礎、教育行政の基本と制度である。このプログラムの総登録数は939人である。大方の予想に反して、継続教育プログラムの準学生の大多数の学業成績は、学位プログラム学生の多くより、驚くほど勝っていることが証明されている。試験の席に着いた486名の準学生の内、223名が合格したが、これは普通の学生の合格率の46%と同じである。普通の学生と準学生の合格率を比較してみるとそうなので、20才以上なら資格に関係なく、誰でも学位プログラムに自由に入学できるようになることを、当大学は望んでいるのである。

## 将来展望

これまで述べてきたことはSTOUの主たる特徴の簡単な説明である。まだほんの赤ん坊なので、この大学が成功したかどうかの評価をするのは早過ぎるように思うが、STOUが誕生した時から直面してきた様々な困難にもかかわらずすでに大きな進展がみられた。3年存在した今でも、STOUはまだ定住地も、又必要なものやあった方がよい備品や施設を持っていない。ほとんどすべてのラジオ・テレビ番組は貸スタジオで作られている。厳密に言えば、政府から分配される予算は運営費の15%にす

ぎないので、大学はそれに頼ることが出来ない状態である。例えば、運営開始の年に、STOUは1700万バーツの分配を受けた。この内、1500万バーツは建物の建設費に指定されており、残りの200万バーツが運営費に回されたのである。学生から集められた授業料なしに、STOUは今日みられるような進捗も勢いも得ることはできなかったであろう。定住地に関しては、バンコクの郊外約200キロのチャエン・ワタナ・ロードが寄贈され、様々な建物の建設入札が、1982年初めに行われる予定である。完成した暁には、STOU本部は先に述べたすべての事務所、ことに教育放送制作センター、大学印刷局、録音スタジオ、情報文書課を、収容することになるであろう。当分は賃貸であろうと借用であろうと、使うことができるどんな施設でも使って運営していかなければならない。

教育が遠隔で行われ、教室の中ではないという点で、タイの外の全大学と違うとはいいながら、STOUは学問水準と優秀性等について関心を払っており、タイの他大学と同等の水準を達成・維持したいと思っている。コース資料とラジオ・テレビ番組制作の準備のために捧げられた特別の配慮と奨励金にもかかわらず、ある素材は、前もって学生に提供するのに大変良くできていると判断されつつも、1学期が終わったら改訂が必要であることが分かった。幸い、STOUはとても効果的なフィード・バック

ク・システムを持っているので、コース・ライターや教育メディアの制作に関心を持っている人々に、学生へのこういった学習支援素材について知ってもらい、自分達が制作した遠隔教育素材の成功度を評価してもらうことができる。

しかし、STOUが使っている遠隔教育システムは、まだほんの実験段階であることを指摘しておくべきであろう。学生と一般人の要望に合わせるには、多くの改訂と再構成が必要である。STOU教員が、学生の側の学習動機や熱心さに関するかぎり何の不満の原因をも見出さないとはいいながら、彼等の大多数は勤労者であることから、遠隔教育という性格を持ったこの大学の成功は、依然として様々な要因に支配される。外にも色々ある中で、将来の学生の増加に対処するための効率的な郵便業務、そして、様々な機関が提供する関係支援業務の効率性、さらに財政的であれ政治的その他のものであれ、そういったものの継続的な支援体制に依るところが大きいのである。